

室戸ユネスコ世界ジオパーク認定10周年記念 オリジナル フレーム切手贈呈式

室戸ユネスコ世界ジオパーク10周年を記念して、開催されたフォトコンテスト。9月17日に受賞者6名を招いて、記念切手贈呈式を執り行いました。

天然写真家の前田博史氏を特別審査員に招いての今回のフォトコン。受賞10作品はオリジナル フレーム切手になり、9月17日より販売します。

人の暮らし部門の大賞『さぎっちょ』を撮影した、室戸市在住の宮崎万純さんは「大好きな室戸を撮った写真が切手になって、多くの人に見てもらえると思うとうれしい」と喜びをあらわにしていました。



【オリジナル フレーム切手販売場所】

- ・室戸世界ジオパークセンター
- ・高知県の全郵便局
- ・四国内（松山中央郵便局、高松中央郵便局、徳島中央郵便局）
- 計229局なくなり次第販売終了
※一部の簡易郵便局は除きます。
- ・日本郵便株式会社Webサイト
「郵便局のネットショップ」
9月25日（土）00時15分～

※「オリジナル フレーム切手」は
日本郵便株式会社の登録商標です。



「郵便局のネットショップ」QR

室戸ジオパークに新たな仲間が加わりました。（地質専門員：柿崎喜宏）

かきざき よしひろ



室戸市のみなさま、はじめまして。

この9月から室戸ジオパーク推進協議会に地質専門員として赴任しました、柿崎喜宏(かきざきよしひろ)と申します。山形県出身で、大学と大学院で地質学を専攻した後に、いくつかの大学で地質学の研究に関わる仕事をしてきました。

趣味はアウトドア系の活動や旅行です。東京にいたときは、よく登山に出かけていました。登山で一番印象的だったのは真夏に谷川岳を縦走した時のことです。そこは森林限界を越えた山で、稜線には高山植物のきれいなお花畑が広がっていました。一方、日差しをさえぎるものは何もなく、脱水症状で死にかけました。天国のようなお花畑が灼熱地獄の中に広がっているという、自然の美しさと怖さの両方を体験しました。

日常的にはロードバイクに乗っています。これからは市内各地をロードバイクでぐるぐる巡る予定ですので、見かけたら声をかけて下さると嬉しいです。

家の中では本の虫です。歴史系の本を多く読みます。小説では司馬遼太郎のファンで、彼の代表作「坂の上の雲」が愛読書の一つです。高知県関連の彼の作品もいくつか読んでいます。

私の長所は、何事にも好奇心旺盛なところだと思っています。色んなことに首を突っ込み、色んなところに顔を出して、多くの人々と繋がりたいと思います。また、お酒には弱いですが(酒づきあいの多い高知では致命的?)、飲みニケーション自体は大好きです。室戸のさまざまな方と出会えるのを楽しみにしています。

これまでの私にとって、室戸は縁深い土地ではありませんでした。引っ越してきて不安な気持ちもありますが、お会いした室戸の人々の温かさにとっても助けられています。協議会のみなさま、室戸市のみなさまと力を合わせ、ジオパーク活動を通して地域を盛り上げるのに貢献していきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いします。



今年9月18日で世界認定から10周年を迎えた室戸ユネスコ世界ジオパーク。 10周年記念を祝して、室戸ジオパークを支えてきた沢山の方々から メッセージをいただきました。



「ジオパークって何？」という時代にいち早く名乗りをあげ、室戸の地質・自然・文化を再認識、ひとりひとりの創意工夫で逞しく笑顔を絶やさず変動帯で生きる室戸人の魅力は、世界中に紹介されてきました。「室戸は昔から世界と繋がっちゃった」のかもしれませんが、ユネスコ世界ジオパーク認定以降、今や室戸住民は国連に対して直接もの言える立場です。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）を意識してか、文化庁は文化財・天然記念物も活用することで未来に残していこうと、ジオパークそっくりの方針を打ち出しました。100年後、1000年後に残る地域・歴史作りは室戸から！更なる発展を祈念しています。

顧問：岩井雅夫（いわい まさお）

世界ジオパーク認定の瞬間、私は可否が発表されるノルウェーの会場にいました。各国の新規認定地域の発表が始まり、ついに“Muroto Geopark”とアナウンスされました。拍手で歓迎される中、室戸市民の活動の成果が認められた気がして、どこかホッとした気持ちになったことを良く覚えています。

室戸半島は、大地変動の証拠が見られ、今後も地震によって隆起する“変動帯”を象徴する稀有な地域です。加えて、地質地形の資源を防災・観光・教育等に活かす人々がいることも魅力的です。ジオパークを通じて、そのような人々と試行錯誤してきた経験は、今の私の基盤となっています。これからも、室戸から皆さんの活動の様子が発信されるのを楽しみにしています！

2010～2014 地質専門員：柴田伊廣（しばた ただひろ）

2011年度からの室戸での4年間。ユネスコ世界認定、日本ジオパーク全国大会、世界ジオパークセンター整備…ジオパークという目に見えないものが少しずつ可視化されていったように思います。当時の写真を見返して印象的なのはアイデア出しの話し合いが多いこと。模造紙と付箋紙を使って事務局内はもちろん、市民の方々や時には高校生も交えて話し合いを重ねました。ジオパークの現地審査員として世界、日本と各地を巡る現在、室戸ジオパークの強みはやはり人だと再認識しています。特にジオパーク全国大会での市民パワーは強く印象に残っています。プレートの沈み込みに伴い繰り返す地震、津波、大地の隆起。そんな地球の営みの中で謙虚に生きる人たち。SDGsの取り組みが世界中で広まる中、「人と地球の心地よい関係」を目指すために室戸だからこそ伝えられるメッセージがあると思います。

2010～2014 地理専門員：柚洞一央（ゆほら かずひろ）



2011年5月から約2年間、室戸ジオパークで地質専門員を経験させていただきました。室戸ジオパークでジオパークのプログラムの素晴らしさをみなさんと一緒に理解し、活動した時間は、私の人生のターニングポイントとなるような掛け替えのないものとなりました。

現在は徳島県三好市で三好ジオパーク構想の地質専門員として活動しておりますが、室戸ジオパークでの経験がなければ、今の活動へつながっていなかったと思います。室戸ジオパークに対して私がどれだけ貢献できたかはわかりませんが、私が室戸ジオパークから受けた影響は非常に大きなものです。それだけこの地でのジオパークの活動が素晴らしいことである、ということだと思いますので、これからもユネスコ世界ジオパークとして邁進していただけたらと思います。

2011～2013 地質専門員：殿谷梓（とのたに あずさ）

10周年、おめでとうございます。10年というと、フィリピン海プレートは室戸に向かって40cm程移動し、室戸岬は5cm程沈んで次に隆起するための力を蓄えたということでしょうか。そう考えると10年は大きいですね。これからも大地の動きの速さに負けないぐらい、室戸ジオパークの活動が盛り上がっていくことを楽しみにしております。

2014～2017 地質専門員：白井孝明（しらい たかあき）

高知県生まれの私は、室戸市の世界認定を知った10年前、地元の世界に発信できる場所があるのだと、誇りに思ったことを覚えています。国際交流専門員を務めさせていただいたのは1年と短かったですが、その間、世界・日本各地のジオパークの関係者の方々と交流し、改めて室戸という地が特有であり、魅力的であると感じました。特に、室戸は、まちづくりの最前線にいる。隆起する大地と、それに影響を受けてきた歴史文化産業を、多くの人が連携して掘り起こし、見える化し、教育や観光、環境保全、防災などさまざまな分野に活かされている。これは、他地域のお手本であり、必ず未来の財産になると思います。これからのますますの発展を応援しています！

2017～2018 国際交流専門員：仙頭杏美（せんとう あずみ）

室戸のみなさん、お久しぶりです。世界ジオパーク認定10周年おめでとうございます。
2013年から2017年まで室戸ジオパークの専門員をしていました古澤加奈です。その頃多くの方から、室戸の特徴として「熱しやすく冷めやすい」「続けるのは苦手」とお聞きしました。でも、みなさん、すでに10年以上もジオパーク活動を継続してこられていて、「聞いてたのとちがうやん」と東京からツッコミを入れています。2015年からはユネスコ世界ジオパークとなり、国際プログラムの担い手である室戸のみなさんが、世界と繋がり、今後も豊かな室戸の地で、面白くて、美味しくて、楽しい活動を展開されることと期待しています。
2013～2017 国際交流専門員：古澤加奈（ふるさわ かな）

現在私が勤務しているジオパーク準備地域に、「望岳台」という地点がある。活火山の中腹で、標高は1000メートルに近い。海は見えないが、なんとなくここは「室戸岬」のようなところだなと思う。地学的な特徴は全く異なるが、それぞれの地域の象徴的な場所という意味で共通する。室戸岬の荒波に相当するのが、火口からあがる噴煙というわけだ。「室戸のガイドさんだったらこれをどんなふうに案内するのかな？」と、ふと考えてしまう。

ジオパークという得体のしれないもののために働くようになったのは、もちろんその社会的意義を実感したこともあるけれど、自分と家族の生活のためでもあった。室戸での任期が区切れるころ、新たにジオパークを立ち上げる仕事に興味を持った。それで、北海道のジオパーク準備地域に転職した。私が室戸ジオパークの専門員だったのは2015年から2020年3月までで、もしもこの5年間でなかったら今の仕事にも就いてなかっただろう。室戸で学んだことは大きかったと思う。

2015～2020 地質専門員：中村有吾（なかむら ゆうご）

私は東京の学校で教員として働き始めました。同じ年齢の子ども達が教室に集められ、教員の指示に従って同じことをしているのを見て、私はいつも不思議に感じます。子供たちの学びはもっと多様かつ自由で良いのではないのでしょうか。私はそう考えて、理想の学びを学校から追求していくつもりです。

皆さんは室戸がどうなると良いですか。将来の子供たちにはどのような室戸を残していきたいのでしょうか。ジオパークは選挙と違い、投票した後は代表者にお任せというのではなく、理想像に対して自分たち自身で出来ることを行うためのものです。皆さんと私が、それぞれの理想に対して目指して向かっていけば、きっとまた出会える日が来ます。

2018～2020 地質専門員：高橋唯（たかはし ゆい）

まだ、陽も明けない暗闇、ジオボロを着た市民が三々五々市役所へ集合。ノルウェーからの中継を固唾を飲んで待っていました。映し出された市長のアップ!! 続いて、くす玉が割れ、歓喜のなかで待ちに待った室戸世界ジオパークの誕生を祝ったのが10年前なんです。

その間、私も室戸の魅力の発信にお役に立てればと、ジオガイドとして関わらせていただきました。本来、地球科学など、知識の無い私たちを歴代の優秀な専門員のおかげで、ガイド数0だったものが多い年で1万人近い方にガイドをする組織となりました。

これからも、住民の皆さんと一緒に地域振興、学校教育、防災学習などのお手伝いが出来ればと思っています。

室戸市観光ガイドの会：堺喜久美（さかい きくみ）



世界審査が7月に来た時、七夕飾りをして審査員の皆さんと短冊を飾りました。「これに願い事を書いたら叶います」という風に説明をすると、嬉しそうに願い事を書いていて覚えています。

自分たちにとって当たり前の暮らしが、大地と深く関わっており、その恩恵を受けているというのは、ジオパークをきっかけに勉強して分かった事です。ジオパークを利用して、西山台地の作物や土佐備長炭に新たな価値が生み出されたと思います。

私たちが懸命に勉強し、町並みを残そうと頑張っているのは、そこに暮らす人がいるからです。先日京都から訪れたお客さんが、「どうやってこの町並みを守っていかようとしているのかが、よくわかります」と言ってくれました。文化や伝統を通した人と人との繋がりを、継続して欲しいと思います。

吉良川町並み保存会：青木準吉（あおき じゅんきち）

室戸が世界で認められた瞬間、ドキドキしながら発表を待っていました。あの時の拍手は今でも忘れる事ができません。

ジオパークを通して吉良川を紹介できるよう、勉強会に毎週通い、何カ月もかかってガイドになりました。吉良川まちなみの伝統的建造物の事と同時にジオパークでの学びを伝えることで、町並みを見に来てくれた人にも厚みのある説明ができます。

吉良川町には年間を通じた祭りごとを通して若者たちが交流し、社会生活を学ぶ風習があります。男性は役割を与えられ、年齢と共に責任を負う事で、後輩の育成や年上への敬意を学びます。女性は冠婚葬祭を各家で執り行ってきたことで、料理や盛り付けを学ぶ場にもなってきました。こういった風習は時代の流れで消えていきつつありますが、こういった風習があったという事実は次の世代に受け継がれて欲しいと思います。

吉良川町並み保存会：細木敏美（ほそぎ としみ）

室戸世界ジオパークのあゆみ

- 2011** 世界ジオパーク認定（9月）
室戸ジオパークビジターセンター（10月）
キラメッセ「鯨館」内グランドオープン「深海掘削コア」展示開始
室戸高校「ジオパーク学」を正式カリキュラム化
- 2012** 第3回日本ジオパーク全国大会室戸大会
- 2014** 佐喜浜躍動天然杉郷土の森を守る会結成（4月）
室戸高校「ジオパーク学」受講生が「観光甲子園」にて「日本観光振興協会会長賞」受賞（8月）
日本ジオパーク再認定（12月）
- 2015** 室戸世界ジオパークセンター開設（4月）
世界ジオパーク再認定（9月）
世界ジオパークがユネスコの正式事業化（11月）
- 2016** 企画展「室戸ユネスコ世界ジオパーク深海博2016」
- 2017** 室戸市観光ガイドの会が環境省など主催の「エコツーリズム大賞2016」の特別賞を受賞
- 2018** 室戸ジオパーク「ジオサイト」見直し（2月）
51のジオサイト（地質・地形）・10のエコサイト
（生態系）・17のカルチュラルサイト（文化・歴史）・
10の拠点施設を主要な活動場所として指定
日本ジオパーク再認定（9月）
室戸ユネスコ世界ジオパーク学術研究助成事業スタート（9月）
ランカウイユネスコ世界ジオパークと姉妹提携
- 2019** 室戸世界ジオパークセンターが（4月）
地域ESD活動推進拠点に登録
ユネスコ世界ジオパーク再認定審査（6月）
西山金時スウィートポテトロール（10月）
「にっぽんの宝物グランプリ」高知県大会グランプリ受賞
文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」開始
- 2020** 室戸高校「Glocal High School Meetings 2021全国高等学校グローバル探求オンライン発表会」
日本語発表部門で銀賞、英語発表部門で最上位の金賞・文部科学省初等中等教育局長賞を受賞
- 2021** 室戸ユネスコ世界ジオパーク10周年
10周年記念イベントフォトコンテスト（3月）
記念切手贈呈式・「室戸ユネスコ世界ジオパーク世界認定10周年記念」切手販売（9月）



事務局よりみなさまへ。

室戸ユネスコ世界ジオパーク10周年を、市民の皆さんと一緒に喜び合いたいと思います！

世界ジオパークはユネスコ（国際連合教育科学文化機関195ヶ国が加盟）の正式プログラムとなっておりますが、ユネスコ認定の市町村は四国県内では室戸市だけです。室戸ユネスコ世界ジオパークの審査評価は「人」でありまして、市民の想いや活動が高く評価され、そうした取り組みが世界に情報発信されております。今、ユネスコ世界ジオパークは44ヶ国に169認定されていますが、この10周年を契機に、ジオ活の一環としてグローバルなジオビジネスのモデルづくりに挑戦したいと思っていますので、一層のご協力をよろしくお願い致します。室戸ジオパーク推進協議会会長：植田壮一郎

世界ジオパーク認定10周年にあたり、これまで室戸ジオパークに携わっていただいた方々に、心より御礼申し上げます。室戸ジオパークが世界認定を受けた時、私は観光課に所属していました。あれから10年経った今、「観光」のカタチがジオパークを通して大きく変化しているように感じます。大地が誕生する最前線のユネスコ世界ジオパークに認定された、室戸の強みである豊かな自然と人のぬくもりを、皆さんと伝えていきたいと思います。室戸ジオパーク推進協議会事務局長：大西亨



発行：室戸ジオパーク推進協議会

【電話】0887-22-5161

【Eメール】info@muroto-geo.jp

【住所】〒781-7101高知県室戸市室戸岬町1810-2（担当：和田也実）